

平成18年の事業年度を迎えて



社団法人 電波産業会  
専務理事 若尾 正義

当会は、去る4月1日から平成18年度の事業年度に入りました。

昨年度は、会員の皆様のご協力及び総務省を始め関係機関のご支援、ご協力のお陰をもちまして、当会の諸事業を順調に遂行することができました。心から厚くお礼申し上げます。

新しく始めました平成18年度は、去る2月23日に開催されました第21回通常総会でご承認いただきました事業計画に基づき、総務大臣指定の「電波有効利用促進センター」及び「指定周波数変更対策機関」としての諸事業を積極的に推進して参りますが、主要な事業は次のとおりであります。

まず、次世代無線通信技術に関する調査研究・標準化活動につきましては、通常総会でご承認いただいた「高度無線通信研究委員会」において、IMT-2000、その後継システム及びブロードバンドワイヤレスアクセスを含む高度な無線通信システムの技術的検討並びに国際標準化に積極的に取り組むこととしております。

次に、デジタル放送の標準化活動につきましては、移動体端末向け放送の「ワンセグ」も新年度から開始されましたが、サーバー型放送等の高機能化のための作業に取り組むこととしております。

次に、電磁環境問題につきましては、引き続き、電波と人体に関する問題について調査研究を進める他、医療機器に対する携帯電話の発射する電波の影響等の調査を進めることとしております。

次に、アナログ周波数変更対策業務につきましては、これまで計画に沿って順調に進捗した結果、本年2月までに対策を要する一般受信者の約87%の対策を終了いたしました。引き続き、平成18年末までの全国サービスの開始に向け、アナログ周波数変更対策業務の迅速かつ適切な推進に全力で取り組むこと

としております。

このほかの電波有効利用試験研究事業、照会相談業務等のコンサルティング、情報提供業務、普及啓発、関連海外機関との連絡協力等の事業につきましても、昨年度と同様に積極的に推進したいと存じます。

以上述べましたように、平成18年度も当会に課せられました諸事業を、役職員一丸となって積極的に取り組んで参りたいと思っておりますので、相変わらずのご支援、ご協力を賜われますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げましてご挨拶とします。

## ARIBの動き

### 第119回技術委員会(放送分野)が開催される

第118回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成18年3月22日(火) 午後2時から3時30分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) スタジオ設備開発部会委員長から、スタジオ設備開発部会の今年度の活動結果及び来年度の活動方針について報告がありました。
- (2) 事務局から、スタジオ設備開発部会設置要綱の改定提案があり、異議なく承認されました。
- (3) 事務局から、アナログ周波数変更対策業務について進捗状況の報告がありました。
- (4) 事務局から、当会の最近の活動状況について報告がありました。
- (5) 次回の技術委員会(放送分野)は、平成18年5月24日(水)午後2時から開催することとなりました。

## 電気通信・放送 行政の動き

### 高速無線LANの導入のための技術的条件の審議開始 (情報通信審議会での審議開始)

3月27日、情報通信審議会情報通信技術分科会(分科会長:宮原 秀夫 大阪大学総長)において5GHz帯無線アクセスシステム委員会から「高速無線LANの技術的条件」についての審議を開始する旨の報告がありました。

#### 1 審議事項の概要

## (1) 目的

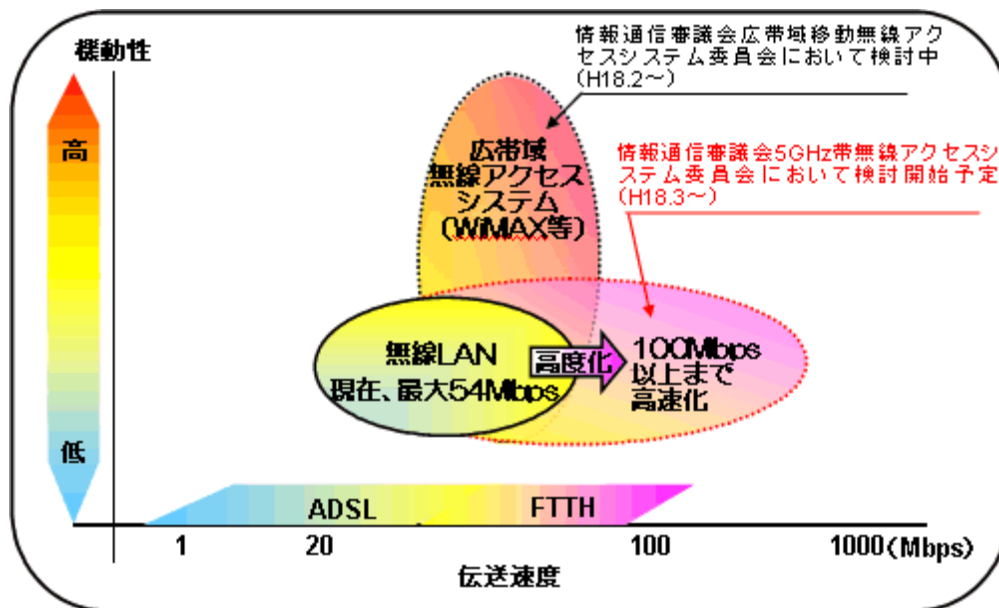
ア 光ファイバ等の有線系ブロードバンドにそん色のない伝送速度(100Mbps以上)の高速無線LANの実現

イ 国際的な標準化動向(IEEE802.11n)〔2006.1:ドラフト策定、2007春:規格策定見込み〕を踏まえた我が国における高速無線LANの早期導入

ウ ワイヤレスブロードバンド推進研究会(2005.12最終報告書)で検討された次世代情報家電における無線LANの利用ニーズへの対応

以上のことから、100Mbps以上の伝送速度を実現する高速無線LANの導入のための技術基準を検討する。

※ 使用周波数帯については、既存の無線LANと同じ。



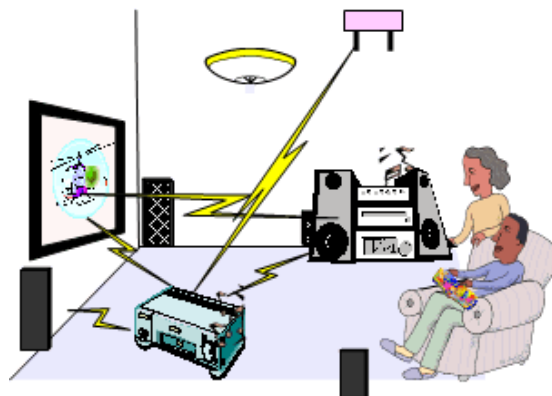
無線LANは、現在の最大54Mbpsの伝送速度を低機動性環境下(注)で提供するシステム(IEEE802.11a/g)から、同環境下で100Mbps以上を実現するシステム(高速無線LAN)へ高度化

(注)ITU-R Rec. M.1450ではup to 6m/sを例示

## (2) 利用ニーズ(利用シーン)

ア 家庭内や無線スポット等において、光ファイバ等の有線系ブロードバンドにそん色のない伝送速度(100Mbps以上)により、インターネットに常時接続

イ 面倒な配線が不要で、機器の設置の自由度が高く、高品位(High Definition)の映像ストリーミングの伝送(100Mbps以上)が可能な次世代情報家電間の接続



### (3) 主な検討課題

- ア チャネル広帯域化(帯域幅40MHz方式を追加)  
最適なチャネル配置、スプリアス規定 等
- イ MIMO(Multiple Input-Multiple Output)による空間多重伝送  
空中線電力の測定法 等

詳細については、<[http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060327\\_4.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060327_4.html)>をご参照下さい。

## 欧州電気通信/ 放送の動き

### モバイル・テレビの実験は順調 【ブイグ・テレコム コミュニケ,2006/03/02】

ブイグ・テレコム(携帯事業者)は、3月2日、同社が参加しているモバイル・テレビの実験が順調な結果を示していると発表。

ブイグ・テレコムは、現在フランスで行われているモバイル・テレビに関する実験4件のうち3つに参加している。これらのテストは、DVB-H規格とT-DMB規格を使用している。

DVB-H規格のテスト結果は良好で、テスト参加者の84%が、携帯端末がテレビ受信に適しているとしており、画像と音声の質に関しても、それぞれ98%と95%の参加者が満足だと回答している。また、受信状態が良好ならば、参加者の74%が毎日10分以上視聴している。

一方、T-DMB規格のテストは、同規格を利用した商業サービスが既に韓国で開始されていることから、DVB-H規格のテストがモバイル・テレビの新たな用途を探るものであるのに対し、技術面だけに関する試験となっている。これらのテスト結果も良好で、モバイル・テレビへのニーズが強いことを示している。

ブイグ・テレコムは、2005年10月26日から、ブロードバンドiモード上で16局のテレビ放送を開始しており、ブロードバンドiモードの加入者の5人に1人が、モバイル・テレビ・サービスを利用している状況となっている。

## 編集後記

ARIBは虎ノ門の日土地ビルの14階に事務所(本所)を構えていますが、5月上旬に11階に引越の予定です。この機会に、レイアウトの見直しが行われることになりました。

専門業者からレイアウト委員会に引越後のレイアウト案が提示されたのですが、男子の個人ロッカーをつぶしてワードローブに変更する案(衣類をハンガー掛けするだけ)、喫煙室や休憩室を追加する案などが盛り込まれていました。なかでも男子の個人ロッカーをつぶす案が一番不評だったようで、あちこ

ちから反対意見が出て廃案になったようです。また、喫煙室や休憩室を追加する案も、他のニーズが優先されたようで、廃案になりました。

目立った変更は、役員室が現在の総務部の場所に移動し、総務部、利用促進部、企画国際部、研究開発本部及び開発センターが東側に少しずつシフトするだけなので、引越後にARIBを訪問される方がとまどうことはないと思われます。

しかし、専門業者のレイアウト案を見て、現状のレイアウトが細かな所では改善できる箇所があるものの、全体のバランス上は良くできたものだということがわかりました。

それにしても、多くの言いたい放題の意見をまとめなくてはならないレイアウト委員会、特に取り纏めのN次長は、さぞかし大変なことでしょう。

(編集子:PAO)

[ページの先頭に戻る](#) ▲